

厚木稲門会だより

発行： 早稲田大学厚木稲門会

事務局： 神奈川県厚木市船子607-8

TEL: 046-296-6006

FAX: 046-224-6571

発行人：吉成征一 編集人：鈴木清一

平成24年度 定期総会開く 講演会・懇親会も盛況

発足して第36回目となる、平成24年度の、厚木稲門会の総会・講演会・懇親会が10月14日(日)にレンブラントホテル厚木で開催された。小生が司会を担当し、会員50名の出席の中、吉成会長の力強い開催の挨拶で口火を切り、早稲田大学からご出席の物江誠地域担当副部長のご挨拶をいただいた後総会が開始された。

1. 総会

恒例により、吉成会長が議長に選任され、議事に入った。

①報告事項

- 平成23年度の活動概況報告
- 分科会活動報告
(ゴルフ・テニス・囲碁・稲粋会・カラオケ・ハイキング・社会貢献)

②承認事項

- 会計報告及び会計監査報告

③審議事項

- 平成24年度活動計画(案)
報告・審議事項に対して全員の

承認で、総会は締めくくられた。

2. 講演会

今回の講演会は、鎌倉建長寺の宗務総長の高井正俊様にご講演をいただいた。講演は会員の他に、県下稲門会のご来賓、一般市民の方達も聴講され、会場も80名を超える盛況振りであった。

(内容は「講演会」を参照)

③懇親会

場所を大広間に移動し、早稲田大学2名、慶応大学三田会3名、県下の稲門会、講演者の高井氏、そして会員及びその同伴者を含めて総勢80名で、懇親会が開始。

吉成会長の挨拶で幕を開け、来賓紹介。来賓挨拶は、早稲田大学の地域コーディネーター駒形氏、慶応三田会の近藤会長よりいただき、横浜稲門会の佐藤靖雄会長に乾杯の音頭を取っていただき、歓談に入った。歓談の半ばで、初参加の会員の紹介、そして恒例になった抽選会が行われた。会場が盛

り上がったところで、校歌の斉唱を、元応援部の小林会員のリードで全員で高らかに歌った。

最後は余人に代え難い存在である中島会長代行の当意即妙の閉会の挨拶で幕を閉じた。

(S43理工 朽木 達)

会長挨拶 吉成 征一 (S35 文)

厚木稲門会は昭和51年の発足以来、36年の時を刻んできました。その間、役員及び会員の皆様のご支援ご協力のお蔭で今日を迎えることができました。



今後も会則にあるように「会員相互の親睦を図るとともに、母校並びに地域社会の発展に寄与する」ことを念頭に置きながら、活動をしていきたいと思ひます。

幸い、ゴルフ・テニス・ハイキング・囲碁・稲粋会・カラオケ等の同好会活動も盛んになり、厚木三田会との連携も深まり、ボランティア活動も軌道に乗りつつあります。この気運を推進するため各位の一層のご支援をお願いします。

講演

「命をありがたく受け止める」

鎌倉建長寺 宗務総長 高井正俊 氏 (S43教)

講師の高井氏は、現在、鎌倉建長寺の宗務総長として三期目を迎え、寺の様々な活動にその手腕を発揮。旧態依然としている檀家制度にも苦言を呈している。

講演のテーマは、終始感謝の心を持って生活することの大切さであった。

朝目覚め、今日という時間を使えることを「ありがたい」と思えるだろうか。そして六根(目・耳・鼻・舌・身・心)を感謝する心で受けとめているだろうか、先

ず問われた。健康とは決して当たり前のことではなく六根がすべて健やかであるからこそその健康である。まして自分自身の存在は、なお感謝に値するもので大切にしていこうと、説かれた。

又、人が生きていく上では、多くの学びと助けが必要であり、それらを四恩と呼ぶ。まずは、御本尊様(その教えを伝える僧侶や経文)、命を貰った父母、そして、衆生(命あるすべてのもの)、さらに自分が生かされている大地。



これら四恩にお返しをの思いで「他人に何かを」は菩薩の願いに連なる。自分の中にある素晴らしいものを見出し、有効に用いていくことが肝要と結ばた。

終始、穏やかな口調と平易な言葉使いで、分り易い内容であったが、さて、実行は……。

(S41教育 中川匡子)